

野菜散布用殺虫剤

# ベネビア<sup>®</sup> OD

powered by

**CYAZYPYR<sup>®</sup>**  
ACTIVE INGREDIENT



**ネギアザミウマの被害に負けない。  
綺麗なねぎを作るためのローテーションの1剤として。**



ネギアザミウマ



シロイチモジヨトウ



ネギハモグリバエ

- ネギアザミウマに対して、高い防除効果と約2週間の残効が期待できます。
- 速効的に食害を停止させ、被害を拡大させません。(虫が死ぬまでに数日かかります。)

■適用害虫と使用方法(適用表から一部抜粋)(色文字が適用拡大部分)

2019年9月25日現在

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアントラニプロールを含む農薬の総使用回数
ねぎ	シロイチモジヨトウ アザミウマ類 ハモグリバエ類	2000倍	100~300ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内 (定植までの処理は1回以内、 定植後の処理は3回以内 (但し、株元灌注は1回以内))

その他の適用作物：キャベツ、はくさい、だいごん、ブロッコリー、レタス、**非結球レタス**、トマト、ミニトマト、きゅうり、ピーマン、いちご、えだまめ、だいず、たまねぎ、やまのいも、かんしょ、ばれいしょ、かぼちゃ、**アスパラガス**、**未成熟とうもろこし**、**にんじん**、**さやいんげん**、**オクラ**、**ししとう**、**たばこ**

■ねぎでの混用事例 ベネビア<sup>®</sup>ODを殺菌剤、展着剤、殺菌剤×展着剤の組合せでの混用をねぎで確認しました。

▼ 殺菌剤

2019年7月5日現在

▼ 展着剤

▼ 殺菌剤×展着剤

薬剤名		
アフエット(FL)	スミレックス(水)	ベルコート(水)
アミスター20(FL)	ダイアメリット(DF)	ベンコゼブ(FL)*
アリエッティ(水)	ダコニール1000(FL)	ベンレート(水)
オンリーワン(FL)	テーク(水)	ポリオキシAL(水)
カンパネラ(水)	トップジンM(水)	ポリレリン(水)
サブロール(乳)	パイオキーパー(水)	ラリー(水)
ザンプロDM(FL)	バリダシン5(液)	ランマン(FL)
ジマンダイセン(水)*	ファンタジスタ(WG)	リドミルゴールドMZ*
スターナ(水)	フルピカ(FL)	レーバス(FL)
ストロビー(FL)	ベトファイター(WG)	ロブラール(水)

薬剤名
K.Kステッカー
アイヤーエース
アピオンE
アブローチBI
グラミンS
ササラ
スカッシュ
ニーズ
ブラボー
ブレイクスルー
まくびか
ミックスパワー
ラビデン3S
ワイドコート

殺菌剤
アフエット(FL)
ジマンダイセン(水)
スミレックス(水)
スターナ(水)
トップジンM(水)
バリダシン5(液)
フルピカ(FL)
リドミルゴールドMZ
レーバス(FL)
ロブラール(水)

展着剤
アブローチBI
ササラ
ニーズ
ブレイクスルー
ミックスパワー

これらのどの組合せも確認済みです。問題ありませんでした。

【記号の説明】

(乳)	乳剤	(DF)	ドライフロアブル剤
(水)	水和剤	(FL)	フロアブル剤
(液)	液剤	(WG)	顆粒水和剤

\*老化学の軟弱苗には軽度のへこみ等の症状が発生することがある。

※本表は実施した試験をもとに作成しておりますが、品種、栽培条件、使用濃度、使用時期などにより結果が異なる場合があります。したがって、「被害がない」ということを保証するものではありません。あくまでも混用知見の一例として考えていただきますようお願いいたします。

▲ 効果・薬害等の注意

- 使用前によく振ってから使用してください。
- 使用量に合わせ薬液を調整し、使いきってください。
- 散布液調整後はできるだけ速やかに散布してください。
- アルカリ性の農薬や肥料との混用はさけてください。
- やむを得ず、他の薬剤と混用する場合には、事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。特に、銅剤との混用は薬害を生じるおそれがあるので、混用はしないでください。
- きゅうりに使用する場合、TPNを含む農薬との混用は薬害を生じるおそれがあるので、混用はしないでください。
- トマト及びミニトマトに使用する場合、薬害を生じるおそれがあるので、以下のことに注意してください。
  - ① アゾキシストロビンを含む農薬との混用はしないでください。
  - ② アゾキシストロビンを含む農薬を散布した場合には、散布後2週間以上間隔をあけて本剤を使用してください。
- はくさいに使用する場合、展着剤を加用すると薬害を生じる場合があるので、加用に当たっては事前にその適否を確認してください。
- 使用液量は、対象作物の生育段階、栽培形態及び使用方法に合わせて調整してください。
- 過度の連用を避け、可能な限り作用性の異なる薬剤やその他の防除手段を組み合わせて使用してください。
- つまみ菜・間引き菜には使用しないでください。
- 空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、環境に影響のないよう適切に処理してください。洗浄水はタンクに入れてください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

▲ 安全使用上の注意

- 誤飲などのないよう注意してください。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の処置を受けてください。
- 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすしてください。
- 散布の際は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗顔・うがいをするとともに衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
- ミツバチに対して影響を与えるおそれがあるので、散布の際はミツバチ及び巣箱に近づかないようにしてください。また、散布直後から1日後まではミツバチを散布区域外に移動させるか、巣門を閉じてください。
- 使用残りの薬液が生じないように調整を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 密栓し、直射日光を避け、食品と区別して、冷涼な所に保管してください。

殺虫剤分類 28

殺虫剤抵抗性管理 (IRM)

一般推奨事項：薬剤抵抗性の急速な発達を防ぐために、同一作用機構を持つ製品を連続する複数の害虫世代間にわたって処理することは避けること。ブロック式ローテーション、即ち、ベネビア<sup>®</sup>ODまたは他のグループ28殺虫剤の「ブロック」の後に、異なる作用機構を持つ有効な殺虫剤処理の「ブロック」が続く形でローテーションを使用すること。作付期間(播種から収穫まで)を通して適応されるすべての「グループ28使用ブロック」の合計暴露期間は作付期間の50%を超えてはならない。栽培期間の短い作物は1栽培期間を1ブロックとする。IRM手法の一環として防除体系に組み込むこと。

害虫の抵抗性、作用機構及びモニタリングに関する追加情報の参照サイト

- (1) Insecticide Resistance Action Committee (IRAC) ウェブサイト (<http://www.irac-online.org>)
- (2) <http://www.fmc-japan.com/Agricultural-Solutions/IRAC>

- ラベルをよく読んでください。
- 記載以外には使用しないでください。
- 小児の手の届く所には置かないでください。
- 空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、環境に影響のないよう適切に処理してください。洗浄水はタンクに入れてください。
- 防除日誌を記載しましょう。

©2019 FMC Corporation. All Rights Reserved. FMC、FMCロゴ、<sup>®</sup>を付した商標は、FMC Corporationまたはその米国およびその他の国の子会社・関連会社の登録商標です。

